

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ
〈編集〉
加藤 晴 生
類原 信二 郎
佐々木 豊
160新宿区百人町3-8-11
電話 03(360)3336
(毎月1回発行)

定演オンステージ100名を目指して

サントリーホールを震わせよう!!

幹事長 加藤 晴生(三七)

本年最初の行事・木更津の第九も成功裡に終わって、いよいよ定演に向けてエンジンフル回転させる時がやって来ました。二年に一度のビッグイベント、しかも会場が音に聞く赤坂サントリーホールとなれば、稲グリで合唱をやっている喜びに思わぬ知らず体が震えんばかりになるのは、何も私達幹事ばかりではないでしょう。この素晴らしいホールで男声合唱の持ち味である濃厚なハーモニ

ーを十二分に生み出すことによつて、会場を埋め尽くす聴衆の方々はもちろんのこと、私達自身納得の行く演奏会とすることが出来るのだと考えます。それは先ずオンステージメンバーの拡充が必要であることは論を待ちません。各パート最低二十五名のコンスタンタメントを確保するということは見果てぬ夢でしょうか? パートリーダーや年度幹事ばかりに人集めを任せることなく、

各自が一人ずつ新しい仲間を獲得して来れば、もうそれだけで延べ百名以上のオンステージが実現されるわけですね。ひとつトライしてみよう! 中でも、練習の効率と演奏水準を高めていただくために、若手メンバーの参加が特に期待されます。現役時代、堀君(五〇)の指揮で歌った五〇、五三年卒及び新OB(六三年卒の皆さん、同じく山本正洋君(五七)の指揮で歌った五七、六〇年卒の皆さん(このうち五

七、五九年卒の皆さんは「月下の一群」を手掛けたと聞いており、是非ともご参加下さい。大歓迎致します。話が終始して申し訳ありませんでしたが、それだけのことをご容赦下さい。もちろん定演成功のため、思い付く限りの努力はしてまいります。OBの各位のご理解、ご協力を宜しくお願い致します。

第一回 幹事会招集(第二十二回定演に向けて)

- 七月九日の稲グリ定演に向けて諸作業を詰めるために左記の通り幹事会を開催します。マネージャー、演奏部門とも出席して下さい。
- 二月二十日(土)午後六時から 福井事務所
- 打合せ事項
- ① 定演ステージ順、曲目
 - ② 諸作業分担の確認
 - ③ 予算組み
 - ④ 討議事項
 - ⑤ 二・六年度幹事会の問題提起について
 - ⑥ 第七回OB四連について
 - ⑦ その他
- (以上、幹事長)

第22回定期演奏会までの活動日程

2月16日(火)	東混練習場	18:30~21:00	ロシア民謡
【20日(土)	「稲グリ・幹事会」	18:00~	福井事務所
23日(火)	東混練習場	18:30~21:00	世界の歌
3月1日(火)	〃	〃	〃
8日(火)	〃	〃	子供の歌
15日(火)	〃	〃	ロシア民謡
22日(火)	〃	〃	〃
29日(火)	〃	〃	世界の歌
4月5日(火)	〃	〃	〃
9日(土)	大橋区民会館	13:30~16:00	〃 ◎
12日(火)	東混練習場	18:30~21:00	子供の歌 ☆
19日(火)	〃	〃	ロシア民謡
21日(木)	スペース24	〃	世界の歌 ◎
26日(火)	東混練習場	〃	ロシア民謡
5月1日(日)	スペース24	13:00~16:00	世界の歌 ◎
3日(祝)	〃	〃	子供の歌 ☆
10日(火)	東混練習場	18:30~21:00	ロシア民謡
14日(土)	スペース24	18:00~21:00	世界の歌 ◎
17日(火)	東混練習場	18:30~21:00	ロシア民謡 ※
24日(火)	〃	〃	月下の一群

28日(土)~29日(日) 合宿 ロシア民謡中心 ※

31日(火)	東混練習場	18:30~21:00	子供の歌 ☆
6月5日(日)	スペース24	13:30~15:30	ロシア民謡
		16:00~18:00	世界の歌 ◎
7日(火)	東混練習場	18:30~21:00	月下の一群 ※
14日(火)	〃	〃	ロシア民謡 ※
21日(火)	〃	〃	月下の一群 ◎
24日(金)	スペース24	〃	世界の歌 ◎
■28日(火)	〃	〃	ロシア民謡 ※
(バラライカ楽団と音合せ)			
7月2日(土)	大橋区民会館	13:30~16:00	世界の歌 ◎
3日(日)	スペース24	13:00~16:00	子供の歌 ☆
5日(火)	東混練習場	18:30~21:00	月下の一群 ※
6日(水)	スペース24	〃	ロシア民謡 ※
			(バラライカ)
8日(金)	〃	〃	ロシア民謡 ※

9日(土) 第22回・稲グリ定期演奏会 サントリー大ホール

◎ = 桜楓、桜友と合同練習
☆ = 磯部淑さん(17)参加
※ = 指揮 堀俊輔さん(50)、ソロ 岡村喬生さん(29)参加
■ = 練習場に注意

スペース24 = 地下鉄銀座線・田原町
歩5分・田中玄昌さん(54)
のお世話(芸花舎)
☎03-842-1370

出席状況

	☆	★				
	1/12	19	24	26	2/2	9
T ₁	10	9	7	7	10	10
T ₂	14	9	7	8	12	9
B ₁	11	5	7	7	6	7
B ₂	15	10	12	14	13	16
	50	33	33	36	41	42

☆ = 新年会、★ = 木更津・第九

《初登場のOB》
T₂ 浦部 正明さん(四七)
《久々登場のOB》
B₂ 三巻 義夫さん(三七)
B₁ 新田 義邦さん(三〇)
B₁ 萩本 良磨さん(三二)
B₁ 板垣 滋さん(三五)

練習百状況

一月二十六日から、いよいよ定演の練習に入った。この日と二月二日の二回は「子供の歌」。どれも楽しくやさしい曲なので、ほぼ一通り終わる。今後一、二曲の入れ替えがある予定だが、暗譜だとしても可能であると思われる。二月九日からは「ロシア民謡」の練習。原語である。伊東一郎さんの「ロシア語講座」が分かりやすい。「ロシア語講座」が分かりやすい。「ロシア語講座」が分かりやすい。「ロシア語講座」が分かりやすい。

「ハミダシ情報」近藤剛広さん(六〇)が三月十三日、茨城県水戸市で山田玲子さんと職場結婚ゴールイン。祈ご多幸。

「敷居が高い」「他の方がやり易い」 「キツカケさえあれば……」

活発な意見を交換——「年度幹事会」

OB会・稲グリ活動の一層の盛上りを図るため、二月六日(土)夜、赤坂の稲門倶楽部(オーナー秋元さん(三三))に年度幹事等三十名のOBを集めて「年度幹事会」が開かれた。

新体制の運営幹事で本年度をスタートした中で、OB会・稲グリの基礎固めを是非という加藤幹事長の強い意向のもと、年度幹事担当マネの玉崎さん(二七)、横尾さん(三七)が実務に当たり開催

《出席者一覽》

- 二四年卒 長尾
- 二七 内田、玉崎
- 二九 志賀
- 三〇 阿部(美)
- 三一 徳田
- 三二 秋元、萩本
- 三四 田中(弘)
- 三五 石原、宮地
- 三六 井上、奈良原
- 三七 辻田、横尾
- 三八 児玉
- 四〇 清水(卓)
- 四二 穎原
- 四三 服部
- 四四 土屋
- 四五 今沢、山本(雄)
- 四七 安斎
- 五一 武内
- 五三 伊東(孝)
- 五四 篠
- 五五 高野
- 五九 佐々木
- 六一 石川
- 六二 西山

(以上計三〇名)

「三十年代」

練習やステージに出ないでよいという条件で年度幹事を引き受けた。敷居が高いと感じる人、下手で自信がない人と稲グリとの接点役になるつもり。

「四十年代」
現役の演奏会や打上げにOB側からもっと積極的に交流を深める努力をするべきだ。

武内さんのカラオケのこと

居並ぶ稲グリメンも啞然としてそのうまさに聴きいった。五十二年卒武内さんのカラオケ。うまいなんてものじゃない。森進一より確実に上だ。奈良原、永井、村上に伍してテナー四天王の一角に！

発言要旨

「三十年代」
練習やステージに出ないでよいという条件で年度幹事を引き受けた。敷居が高いと感じる人、下手で自信がない人と稲グリとの接点役になるつもり。

「四十年代」
現役の演奏会や打上げにOB側からもっと積極的に交流を深める努力をするべきだ。

「五十年代」
稲グリはOB会としてのしがらみを持つ特殊な世界だと思おう。お山の大将の四年生から新兵でやり直して先輩は煙たいし、正直敷居が高い。歌が歌いたくなったら他で自由な雰囲気の中での方がいい。しかしOB会としての意義については同期の啓発に努めたい。

「六十年代」
送別演奏会が終わってやっと合唱から解放された心境だった。今は何も拘束されたくない気持ちだし歌うならしがらみもない混声合唱団でも。でも時間が経てば自然に回帰してくるのではないかと。やはり親父の年代の人と一緒に歌うという抵抗感が拭い切れない仲間が一人でも二人でも一緒に参加しやすいのだが……。

会場第一候補《第七回OB四連》

東京厚生年金会館のこと

来年七月に予定されている第七回・東西四大学OB合唱連盟演奏会「の会場押えは、先に玉崎幹事(二七)からの報告の通り、第一候補を上野の東京文化会館大ホールとしていますが、その獲得確率が三〇%ぐらいということから第二候補として新宿の東京厚生年金会館を押さえておくべく、この程、前マネの清水さん(四〇)と穎原マネ(四二)が同館を訪れ交渉を開始した。

ではその構成団体の実績等から何ら問題はなく、申込後に日程の調整のみが残る見通しである。交渉窓口は、同館の文化・ホール・管理を担当する山北正人さんで、氏によれば本年七月末日に来年七月分のホール使用申込を締め切り、各行事を調整した後、二カ月後の九月ごろには使用日を決定することになるとのこと。今後は幹事団の方で具体的な点を詰めて申し込む運びとなる。

稲グリ

OB多数の参加を呼びかけ

いそべとし男声合唱団の新年会で

二月十一日(祝)、江東区文化センター・レクレーション室で行われた、いそべとし男声合唱団の六十三年度「新年会」に稲グリから福井会長(二九)と加藤幹事長(三七)らが招かれて出席した。和やかで盛り上がった宴の中、福井会長が挨拶に立ち、祝辞ともにもいそべ男声に、今年七月九日の稲グリ第二十二回「定演」への参加を呼びかけた。定演には同団の団長でもある磯部さん(一七)指揮による「子供の歌」のステージもあることから、グリOBには是非参加してもらいたいもの。一口シア民謡がグリOB一〇〇人の分厚いハーモニイでサントリ大ホールに響きわたるその時を期待して……。

第37回早大グリー 送別演奏会

2月22日(月)午後5時30分開場
6時開演
豊島公会堂(池袋東口、三越裏手)
「愛唱歌集」「卒団生ステージ」
「北斗の海」
指揮 吉田宰士(卒団生)
早武 淳(新四年)
【入場無料】都合のつくOBは是非駆けつけて盛り上げよう!!



「木更津市民と第九を歌う」の記

一月二、四日木更津市民公会館

稲グリ新聞従軍記者 永井秀夫(四二)

「うちのおにぎりが旨いんだってさ」と女房をおだてて、おにぎり十個、ゆで玉子十個、漬物少々を用意させる。
「まるで子供の遠足ね。行ついで、行ついで」と奴さんに冷かされて家を出る。ああ、行つてくるとも。「ダイク」と弁当は音からつき



「ハミダシ情報」 「木更津第九」は指揮・大町陽一郎、独唱・中沢 桂(S) 伊原直子(A) 小林一男(T) 木村俊光(B)、オケ・日本フィルという豪華メンバーだったのだ。

ものなんだぞ。
千葉、五井を過ぎ、姉ヶ崎まで来ると、もうそこは立派な大入りだりであつた。寒とは思えぬ暖かな日差しが見渡す限りの田畑を眩しく照らしている。えらい所まで来てしまったものだ。「第九」というよりむしろ『田園』といった感じである。隣で児玉さん(三八)がボーカルフエイスで黙々とおにぎりを食べている。旨くないのかな? 前に座つた高野君(五五)「うん、うまい! 米がいい米が。これササニシキでしょう? 僕なんかおにぎり四つとゆで玉子四つも食べちゃつた。ムッフッフ」と笑う。ササニシキだか小錦だか良く分らんが、まあ喜んでもらえて持ってきた甲斐があつたというものだ。よし、これで「試合」の腹ごしらえは出来た。「ゲッテルフンケン」まで何とか歌い切れそうだ。

さて本番。第一樂章からオーケストラの後ろの山台にお座りしてじつと出番を待つ。あの仕切りは長かつた。ベースの方を見ると佐藤(公)君(四八)、福島君(五五)、阿部君(五七)らの巨漢が、所在なげに座つてゐる。「あ、そうだ。今頃千代ノ富士と旭富士の大一番をやつている筈だ」山台に長いことベッタリ座つていたので冷えたのか、菊の花がしくしく痛い。分つていたらうちのやつ毛糸のズロースを借りてきたのに、それにしても、ベートーベンというおじさんはシツコイ人だな。主題副主題を、これでもかこれでもかとたたみかけてくる。今更ながらあの粘着質には恐れ入る。お尻のうずきも手伝つて、しまいに「もついいよ、分つたよ」と言いたくなつた。目を閉じて聴いているふりをしてゐる人がいる。福島君などは、靴を脱いで足を組んで、気のせいか居眠りをしてゐるような風であつたが、いざ立つと思つたら、山台の隙間に入れておいた足が抜けなくなつて慌てたという。五五年組は何をしてかすかわからない、全く。

ゆで卵 が効いた本番!

後ろから、東混のメンバーと現役諸君の正確無比な声が聞こえてくる。「ちゃんとして歌うもんだなあ」と感心する。私だって現役時代一度ばかり歌つてはいるのだが、悪い癖でキーの低い所やPの部分はサボつていたので、いまだにうる覚えである。楽譜はあつても、今や老眼の仲間入りも果たしてゐるうえ、前の人の頭にぶつかつてそれ以上手を伸ばせないから、役に立たない。さりとてメガネを外せば楽譜は見えても、今度は指揮者にカビが生える。結局、本番は暗譜で通した。自信が無い所は歌わなければいいのだ。簡単なことである。ゆで玉子が効いたとみえて、隣の高野君はAを多少上ずり気味に一生懸命張つてゐる。「いやあ、ゆで玉子四つは効きましたねえ、Aなんて軽い軽い」と演奏会がはねてから高野君。「永井さんなんか大きな声でソロの所まで歌つちゃうんだから。参つちやいましたよ」「ギョッ!」本人まるで記憶なし。歌つてみたいとは常々思つてはいたが、まさか本当に歌つてしまつとは。失敗、失敗。私つて本当にお馬鹿さん!

何かにつけて酒盛になだれ込む

「稲グリ魂?」健在! ヤンパン

試験中にもかかわらず応援に来てくれた現役諸君を労うべく、木更津駅前居酒屋「村来」ののれんをくぐる。福井会長が叫ぶ、「おい、酒だ酒だ。つまみをどんどん持つて来い、安い!」最後の一言で主人の笑顔がスッと消えた。同席したトップテナーの現役諸君は次の通り、新四年学生指揮者の早武君(新潟) 巴トリ仲君(川越)、新三年サブパトリ四宮君(長崎西)、鈴木(和)君(立川)、江原君(東葛飾)。みろ! おじさんほもう、名前はおろか出身校まで憶えてしまつたぞ。もう観念した方がいい。これで数年後の稲グリトップは黄金時代を迎えることになるのであります。

洗たく屋四宮(しのみや)君誕生

駅までの道すがら、酒が入つたからには必然的にハモることになる。「気遣い水」とは良く言つたものだ。「ワン、ツー、スリー、フォー、ン アイゴンナ」で私が「ライザ、チャリオット」の口火を切る。考えてみると大騒ぎの元はいつも私だ。ハジカシー。パルトンソロ、永井、ん? この際、何でもやっちゃう。テナーソロ、仲君。歌が途中で空中分解しても、仲君はまだキヤキヤと歌つてゐる。駅前交番の警察官が三人「何だありや」といつた顔でこっちを見てゐる。「千葉県にはあんな連中はいない筈だ」という顔だ。プラットホームで、軽く「こんぺき」と「光る青雲」をぶかまして特急に乗り込む。意外に混んでゐる。「よし、現役の方はオレが面倒を見よう」江戸っ子の会長は気がいい。全員グリーン車へ。一人だけ居た一般のお客さんが途中で降りると、グリーンの貸切りとなる。そして恐ろしい事が起つた。四宮君は立上らると突然「洗たく屋」をおつ始めたのである。シャツを脱ぎ捨て、靴下を脱ぎ、オットー綿のパンツに手が掛かる。「おい、よせ、ちよっと、やめろ! それだけはおよしになつて! あーあ脱いじやつた一車内は瞬時にして阿鼻叫喚の世界に。翌日、いつになく頭が重かつたのは、どうも酒のせいだけではないなかつた様だ。きつと見てはいけなな物を見せましたからに違いない。私が参加すると皆珍道中になつてしまふ。弱つたものである。

さて、木更津音楽協会、東京混声合唱団の皆さん、一緒に歌わせて頂き誠に光栄でございました。二十年振りに「第九」を乗しむことが出来ました。事務局の柳田さんには大変お世話になり、ありがとうございました。そして現役の諸君、御苦労様。また一緒に歌おうぜい!

男声陣の「響き」に感動

皆様、昨日は木更津までご足労を煩わしまして恐縮でございます。お蔭様で、あのような素晴らしい演奏が出来ました。特に男声陣の充実した、しっかりと響き、歌った者にも聴衆にも強い印象を与えたようでございます。本当に有り難うございました。

今回のように多数の関係する会は初めてでしたし、設備不十分な会場、それに又、会の係、役員も多くが合唱に参加する為に手不足、何かと行き届きで、皆様に

ご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。右、お詫びと心からのお礼を申し上げます。皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。どうも有り難うございました。

昭和六十三年一月二十五日
木更津音楽協会 林 英樹
稲門グリークラブの皆様

《三十五年卒同期会》

今年も盛況だった「十日会」

桜楓同期も参加

B₂ 宮地 和夫

三十五年卒恒例の「十日会」は、去る九日、東京全日空ホテル最上階のスカイバー「アストラール」で開かれた。本会は、毎年正月十日前後の土曜日に各パートが輪番で幹事役を受け持ち、卒業以来連絡として続けている。参加者同士が近況を語り合うだけの素朴な集りだが、何故かいつも盛況で、日頃練習に出られぬ連中もこの日だけはやってくる。

今年も、二十三名の仲間が、いつからか参加を願うようになった「桜楓」の同期生八名を加え、総勢三十余名を数えた。幹事(トップ)の熱意と会場設備(馬渡)の賜物と思われ

さて、三十七階のほの暗い会場からは足下にまばゆいネオンが、また眼前には東京タワーのイルミネーションが一望され、パリにでもいるような錯覚を起こす。美酒に酔いしれて遠来の友の挨拶に耳を傾ける。会が終つたら最終電車まで帰るといふ松並(大阪)、相変らず美しい「妹」を同伴の高橋(岐阜)、地元のコラス界に君臨する秋元・渡辺(宇都宮)諸氏の機知に富んだ話に時を忘れる。家事や仕事から離れて一時を楽しむ女性方も無邪気で若い。またたく間に三時間が過ぎ、宴たけなわとなると、村主の音頭でいくつかの愛唱歌を、そして川村嬢のへ細腕



こちらも二十三名。ゴーゴーたるハーマニーはいささかも衰えない指揮「村主(すぐり)一彦」

《四十年卒同期会》

指揮者ポカ休で「歌無し」

「野郎会」の新年会

B₁ 三雲 孝夫

一月二十三日(土)夕方六時から、赤坂のジニーズマジック赤坂店で、恒例となった新年会を催した。近年は、忙しく日程を合わせづらい年末を避け、比較的時間を取りやすい会場も空いている。この時期に新年会を持つている。

今回は、帯広から古沢、福井から前波、昨年アメリカから戻った吉岡を交え、全三十七名中二十三名の参加で賑わった。土曜日は言え当日は仕事の会社もまだ多かった。定刻過ぎに約半数が集まったあたりで乾杯。

席上、阿部(T1)がハーバード大学神学部博士課程で頑張っていること等が伝えられた。酒量こそめつきり落ちたものの、卒業か



1月23日、23年目、23名集まった!?

昨年と同じ店での新年会であったが、比べてみると少し違う。個室でハモリまくった昨年に対し、今年も人数が多すぎ、個室からはみ出してしまふことから広間になった。他の客も多数いてハモりにくい雰囲気でもあったし、何よりも指揮者の工藤(T2)が翌日から中国出張の打ち合わせが長引き、ポカ欠となったことが大きく影響し、歌はお休みという珍しい新年会であった。

- T1 佐々木、鈴木(賢)、
- 広西、藤本、古沢
- T2 稲山、井上、鈴木(嘉)
- 中川
- B1 相場、猪瀬、亀井、菊地
- 島崎、菅原、三雲、吉岡
- B2 磯部、大泊、清水、杉山
- 根本、前波

で「はるとも」をハモって締めに入った。

お開きに際して幹事から練習への参加要請や、年会費の取り立てがあったことは言うまでもない。三十五年卒がA・B会員数、登録率とも一位のヒケツは「十日会」にあると言つても過言ではなく、これからこの集りが契機となり、練習参加者やB会員からA会員への転向者が増えて、両団体の発展に寄与することを願いたい。

稲グリ・ステージ

「ユニフォーム」作成について

担当 B₂ 堀内心統(五五)

稲グリユニフォームは現在グレーを使っていますが、定演等のために新たに作りたい人のために次のように計画を立てていますので、早目にお申し込み下さい。

- ▽第一回締切 三月二十九日(火)
- ▽第二回締切 五月二十九日(火)
- ▽費用 ユニフォーム二万円以内
- ネクタイ 二〇〇〇円
- ▽お申し込み先 堀内心統(むねのり)
- 練習場及び次の電話で受け付けます。
- 〇三一九三〇一五四九二(自)
- 八一―七七二四(勤)

編集後記

■「木更津第九」の客席での印象を同行した横尾さん(三七)に無理をお願いして書いて貰いました。紙面の都合で割愛させて頂きました。ひとえに従軍記者の筆が滑りすぎて止まらないからです。陳謝。

■今号の編集は前号の十頁直後の四頁構成だったので比較的楽に感じました。でも、週末のスケジュールの都合でかなり局長に負担がかかったことも確か。また次号で頑張ります。ゴメンナサイ。(S)

■今日十四日はバレンタインデー。お菓子屋さんを喜ばせるためだけの日のような気がしますが、私のヒガミでしようか?チョココレート売り場にかかっているキャッチフレーズは「少しだけ勇気」。

ちよつといいコピーだと思えます。ところで今、稲グリは若手新メンバー大歓迎ですが、正にこのコピーがピッタリ。「少しだけ勇気」を出して、練習に二、三回足を運べば忘れかけていた男声合唱の味と「庄や」の酒の味できつと納得して貰えるはずですよ。(S)

■次回同期会ニュースは四十五年卒の諸兄です。同期会を開いた時は、写真一枚(全員写真)を添えてご投稿下さい。(E)

■好評の「稲グリ異人伝」(永井秀夫作)が次回掲載の予定です。果たして誰が登場するか。乞うご期待。(E)

■今回も編集作業に当たって石川了君(六一)に大活躍して貰いました。メンバー諸兄には石川君に労いの言葉を是非!。(E)

■何だかいやな予感が。(I)

■本日は奈良原家のオメデタ。昼からは大いに歌って飲みまくるので、珍しく朝のうちに作業終了。万歳!次号まで「再見」。(E)

